

食料の安全保障と

世界の持続的な発展その礎となる食料の安全保障
そのために何が必要か？ 今後の日本農業は？
皆の問題を皆で考える

日本農業の活性化を考える



シンポジウム

日時

平成 21 年 12 月 4 日 (金)
13 時 30 分～17 時 00 分

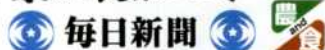
テーマ

食料の安全保障と日本農業の活性化を考える

会場

丸ビルホール (東京駅より徒歩 1 分)
(千代田区丸の内 2-4-1 丸ビル 7 階)

主催：東京農業大学



後援：農林水産省、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本農学アカデミー、実践総合農学会、東京農業大学総合研究所研究会

お問い合わせ：東京農業大学 総合研究所 TEL. 03-5477-2532 FAX. 03-5477-2634 mail: nri@nodai.ac.jp

「食料の安全保障と日本農業の」

第1部

主催者からのメッセージ(30分)



大澤 貫寿

東京農業大学学長

- 1944年、茨城県生まれ。
- 1968年、東京農業大学農学部卒業後、東京農業大学に奉職。総合研究所長、大学院農学研究科委員長、応用生物科学部長を経て、2005年に東京農業大学、同短期大学部学長に就任。バイオサイエンス学科教授。専門分野は、生物有機化学、化学生態学。農学博士。今回のシンポジウムの発案者。
- 学校法人東京農業大学理事、日本農業学会評議員、東南アジア国際農学会副会長、大日本農会理事ほか。日本農業学会賞(業績賞)、望月喜多司記念賞など受賞。
- 主な著書に、「新農薬開発の最前線」など。



菊池 哲郎

毎日新聞社常務取締役主筆

- 1948年、福島県生まれ。
- 1971年、東京大学法学部卒業後、毎日新聞入社。千葉支局、東京本社経済部、ロンドン支局、東京本社経済部長、論説委員長などを歴任。現在常務取締役主筆、毎日農業記録賞運営委員長、水と緑の地球環境本部担当を務める。
- テレビ番組やラジオ番組のレギュラー・コメンテーターを務めたこともあり、歯に衣着せぬ論調で時事問題に切り込む姿勢をモットーに、わが国の農政についても辛口の持論を展開する。
- 著書に、「日本には日本の経済がある」、「楽しく暮らすための経済学」、「常識の壁」など。

第2部

事例報告(60分)



白石 好孝 氏

練馬区農業体験農園園主会会長

いま都市農業がおもしろい!~体験農園経営に挑む~
作物の栽培に挑戦する都市生活者の方々の姿は生き生きとしています。教室や農園で質問もたくさんいただき、とてもやり甲斐があります。生活者と農業者との交流が都市農業に息吹を与えます。

- 1954年、東京都練馬区の約300年続く農家に生まれる。
- 1977年、東京農業大学農学部卒業後、1978年に就農。2007年より練馬区農業体験農園園主会会長を務め、「日本農業賞集団組織の部大賞」を受賞。全国農協青年組織協議会委員長、農林水産省農林水産研修所講師、独立行政法人農業者大学校講師などを歴任。
- 現在約30種類の野菜を生産し、地場で販売する傍ら、練馬区と提携した農業体験農園「大泉風のがっこう」を開園し、利用者に野菜作りを直接指導するユニークな事業を展開。
- 著書に、「都会の百姓です。よろしく」、「やさしい畑 DVD レッスン」など。



面川 義明 氏

稲作経営

都市の生活者は農業の現場にもっと目を向けよ。
都市で生活している人々は、食料と農産物はお店に行けばいつでも手に入ると思っていないですか?担い手の高齢化が急速に進んでいる農業の現場はいま大揺れ。もっと農業に目を向けてみませんか?

- 宮城県角田市在住。
- 20歳で就農して以来35年間、稲作専業農家として農業一筋に生きています。現在、水田16ha、大麦8ha、大豆9haを家族経営で耕作するとともに、角田土地改良区理事、「角田市アジアの農民と手をつなぐ会」代表世話人、あぶくま農学校理事などを務め、地域のリーダーとして活躍中。
- 「趣味は百姓、職業は農業」をモットーに、コメ作りの現場の視点から、真の担い手が育っていないわが国の農政の現状に、大きな危機感を抱くとともに、世界からの農業研修生の受入を積極的に推進するなど、国際的な視野に立った活動も展開中。



齋藤 文子 氏

パルシステム神奈川ゆめコープ理事長

ごはんがまん中「100万人の食づくり運動」
ごはんをまん中にした日本型食生活「一汁二菜」で自給率を上げる運動をしています。食料と農業の問題は生活者みんなで考え行動しなければならぬ問題です。

- 1985年、けんぼく生協(現パルシステム神奈川ゆめコープ)加入。2004年、現職に就任。同時に、神奈川県都市農業推進審議会委員、日本食育学会常任理事、NPO法人小田原食とみどり理事等を務め、「食」と「農」を結び活動に鋭意取り組んでいる。
- 生産者と消費者の交流による豊かな地域再生への取組みが、真の「食の安全・安心」の実現と「農業の活性化」に必要な不可欠との考え方から、年間延べ4000人以上に上る都市と農村の交流事業(小田原食と緑の交流事業)に関わり活動中。
- 趣味は伝統的保存食作り。味噌と梅干は20年のキャリア。米作り8年。



末松 広行 氏

農林水産省大臣官房政策課長

食料の確保は国の重要なミッション
食料を国内で安定して確保するためには、農地、人、技術などを組み合わせた自給力を高めることが重要。自給力を発揮させるためには、水や土などの生産資源を維持・保全することも同時に考えていかなければなりません。

- 1959年、埼玉県出身。
- 1983年、東京大学法学部卒業後、農林水産省に入省。国土防災、地方行政(長崎県諫早市)、漁業交渉、金融問題、米問題、食品リサイクルなどを担当。小泉官邸内閣参事官、農林水産省環境政策課長、同企画評価課長、同食料安全保障課長などを歴任。2008年より現職。東京農業大学客員教授。
- 「バイオマス・ニッポン総合戦略」の提唱者として食料と競合しないバイオ燃料の大増産を打ち上げる。また初代の食料安全保障課長として、食料自給率の向上・食料の安定供給という大課題に取り組む。
- 著書に、「解説食品リサイクル法」、「食料自給率のなぜ」など。

活性化を考える」シンポジウム

第3部

パネルディスカッション(90分)

「食料・真の安全保障とは？」～大胆な発想・慎重な分析～

コーディネーター

中村 靖彦 氏

東京農業大学客員教授

■宮城県生まれ。
■1959年、東北大学文学部卒業後、NHKに入局。仙台支局を皮切りに番組ディレクターとして主に農業番組を担当。1984年、NHK解説委員となり、ジャーナリストとして農業問題をつみつめ、米価審議会委員、畜産振興審議会委員、食品安全委員会委員等を歴任。2001年にNHKを退職後も農政ジャーナリストとして活躍中。日本食育学会会長、NPO法人「良い食材を伝える会」代表理事。女子栄養大学客員教授。

■著書に、「シカゴファイル2012」、「コメ開放・どう変わる日本農業」、「ニッポン食事新事情」、「おいしい米の本」、「子どもたちのための食事教育」など多数。



パネリスト

澤浦 彰治 氏

(株)野菜くらぶ代表取締役社長

■1964年、群馬県昭和村にコニャク農家の長男として生まれる。
■20歳で就農したが、コニャク相場の大暴落による経営危機をきっかけに一念発起し、自ら販売し、資金を調達できる会社組織を作り上げる。各種の野菜を生産・加工し、消費者のニーズに合う商品開発を行なっている。さらに有機野菜の安定供給を目的として、全国の生産者ネットワークを設立した。

■グリーンリーフ(株)代表取締役、(株)サングレイス代表取締役会長。群馬中小企業家同友会副代表理事、日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会理事などを務め、第47回農林水産祭畜系・地域特産部門で天皇賞受賞。



パネリスト

大桃 美代子 氏

タレント・女優

■新潟県魚沼市出身。
■デビューのニュース番組をはじめ、料理、クイズ、バラエティ、情報と幅広い分野で司会として活躍。NHK「クイズ日本人の質問」に出演し大桃博士の愛称で親しまれる。

■2004年10月に起こった「中越地震」を新潟県魚沼市の実家に帰省中、被災。現地からの情報を番組内で伝える。05年には「魚沼特使」に任命され、復興のために活動している。雑穀アドバイザー、野菜ソムリエなどの資格を取得するなど、食育や農業に関心を持ち、07年より新潟県魚沼にて古代米(黒米)作りに挑戦中。売上の一部を「中越沖地震」の義援金に充てている。

■著書に、「日本ーおいしいお米の食べ方」、DVD「大桃美代子のもっと雑穀！おいしい健康レシピ」など。



パネリスト

荒時 康一郎 氏

キリンホールディングス(株)相談役

■1939年、茨城県出身。
■1964年、東京大学農学部卒業後、キリンビール(株)に入社。研究所、事業開発部、小岩井乳業社出向、医薬事業部門を経て、2001年代表取締役社長に就任。代表取締役会長を経て、2007年キリンホールディングス(株)代表取締役会長に就任。2009年3月より現職。

■社外活動では、2006年に日本経済団体連合会農政問題委員会共同委員長に就任し、2009年3月「わが国の総合的な食料供給力強化に向けた提言」をまとめ、食料生産基盤の強化、国民・市場ニーズへの対応、国際連携・協力の推進、スーパー特区の整備などを提言。同年5月まで務めた。



パネリスト

高木 勇樹 氏

NPO法人
日本プロ農業総合支援機構副理事長

■1943年、群馬県生まれ。
■東京大学法学部卒業。1966年農林省入省。食品流通局砂糖課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官などを歴任。

1998年農林水産事務次官に就任。2001年退官。

■退官後、農林中金総合研究所理事長、農林漁業金融公庫総裁などを務め、2007年より日本プロ農業総合支援機構(J-PAO)副理事長。

■現在は、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力し、様々な場面で農政提言を展開している。



パネリスト

板垣 啓四郎 氏

東京農業大学教授

■1955年、鹿児島県生まれ。
■1977年、東京農業大学農学部卒業後、東京農業大学に奉職。国際食料情報学部国際農業開発学教授。専門分野は、農業開発経済学、国際農業経済学、国際農業協力論。博士(農業経済学)。東京農業大学総合研究所プロジェクト研究「わが国の食料自給率向上への提言」の研究代表者として、本シンポジウムの運営責任者である事務局長を務める。現在の主な研究テーマは、東・東南アジア諸国における食料・農業問題など。

■著書に、「食料供給と経済発展の諸相」(編著)、「国際開発学入門」(共著)など多数。



クロージングリマークス(15分)

三輪 睿太郎

東京農業大学教授

■1943年、東京都出身。
■1965年、東京大学農学部卒業後、農林省入省。農業技術研究所、農業環境技術研究所などを経て、農林水産技術会議事務局長、農業研究センター所長、(独)農業技術研究機構理事長、(独)農業・生物系特定産業技術研究機構理事長などを歴任。2006年より現職、2007年より農林水産省農林水産技術会議会長を兼務。
■一貫して肥料学、物質循環と環境の研究に従事し、日本土壌肥料学会賞、日本農業研究所賞受賞。農学博士。
■著書に、「土の健康と物質循環」(共著)、「土の生産力と地球の定員」(共著)など。



開催趣旨

私たちは、日ごろ何一つ不自由することなく店頭で食品や農産物を買って求め、豊かな食生活を送っています。その一方で、食料自給率が40%前後でしかないこともよく知っています。残りの60%は、国内の3倍にも匹敵する海外の農地を使って、食料と農産物を輸入しています。世界の穀物需給は不安定になりつつある将来見通しから、『日本の食料はだいじょうぶなの?』という素朴な疑問が生まれるのも当然のことと思います。食料・農産物を供給する日本の農業はどうあるべきなのか?その活性化へ向けたあり方がいま真剣に問われています。

このシンポジウムでは、主催者の東京農業大学と毎日新聞社からのメッセージをうけ、食料・農産物生産の最前線で活躍している農業者、生活者の視点に立って食-農-地域を結んで活動している生活協同組合、わが国の食料安全保障を担当している政策立案者の皆様からさまざまな話題を提供していただきます。

またパネルディスカッションでは、わが国の食料と農業に関係したそれぞれの分野で活躍している著名で多彩な論客をお招きして、日本の食料安全保障と日本農業のあるべき姿をおおいに語っていただきます。

シンポジウムを通じて、ご来場の皆様方におかれましては、日本の食料と農業を多角的にとらえる素材を共有する時間にしていただければ幸いに存じます。

プログラム

- 12:30 受付開始
13:00 開場
13:30-13:45 開会、出演者紹介、スケジュール説明(司会:河野友宏・東京農業大学総合研究所長)

第1部

- 13:45-14:15 主催者からのメッセージ 大澤 貫寿(東京農業大学学長)
菊池 哲郎(毎日新聞社常務取締役主筆)

第2部

- 14:15-15:15 事例報告 白石 好孝氏(練馬区農業体験農園園主会会長)
面川 義明氏(稲作経営)
齋藤 文子氏(パルシステム神奈川ゆめコープ理事長)
末松 広行氏(農林水産省大臣官房政策課長)

<休憩>(15分間)

第3部

- 15:30-17:00 パネルディスカッション
コーディネーター 中村 靖彦氏(東京農業大学客員教授)
パネリスト 澤浦 彰治氏((株)野菜くらぶ代表取締役社長)
大桃 美代子氏(タレント・女優)
荒蒔 康一郎氏(キリンホールディングス(株)相談役)
高木 勇樹氏(NPO 法人日本プロ農業総合支援機構副理事長)
板垣 啓四郎氏(東京農業大学教授)
- 17:00-17:15 クロージングリマックス 三輪 睿太郎(東京農業大学教授)